



學會彙報

雑誌名	漢文學會々報
巻	13
ページ	29-32
発行年	1951-11-15
URL	http://hdl.handle.net/2241/00147706

學 會 彙 報

昭和十七年刊行の第十二號以來、約十年の空白を経て、此度、本學會報の復刊を見るに至りましたことは、斯學の向上及び本學會の發展に寄與すること大なるものと考えられ、慶賀に堪えないところでございます。

休刊以來、諸種の悪條件が重なりましたが、行事その他に關しては出來得る限りの努力を拂つて参り、その一部は前數回にわたり、パンフレット等で御報告申し上げた通りでございます。此度の復刊を機に、改めて、終戦以來の本學會及び研究室の動向を記録してみました。

一、昭和二十一年度

○ 研 究 會

戰爭道義の問題

方 法 論

○ 卒業論文發表會

支那古代社會に於ける民族祭祀の一例

紅樓夢研究の態度

春秋學研究序説

梁辭傳思惟の一試論

楊子に就いて

爾雅研究の前提

魯郊に就いて

王子の學に就いて

墨家思想管見

五月二十四日

特別研究生

文學博士

六月七・十四・二十一日

鈴木修次君

島山一郎君

水澤利忠君

平野賢郎君

小林實君

加賀榮治君

加藤清雄君

木内勇君

井口幾次郎君

一。昭和二十二年度

○ 總 會

1 研究發表會

釋 有 來

三刑說に就いて

儒教の再認識

日本漢學史上(奈良朝まで)

の諸問題

梵辭の崑崙神話に就いて

毛詩詁訓傳に就いて

學案備忘錄

世

2 特別講演

行 不 由 徑

3 懇 親 會

五月二十五日

東京高師

桐朋高校

千葉大學

教育大學

江戸川高

靜嘉堂

東京大學

東京女子大

文學博士

諸橋 勲 次氏

牛島 德 次氏

渡邊 弘一 郎氏

荒 井 榮氏

尾關 富太 郎氏

土 肥 輝 雄氏

米山 寅太 郎氏

小澤 文四 郎氏

熊谷 尙 夫君

志賀 一 朗君

十一月十六日

本學會長

竹 田 復氏

十一月中旬以後

(指導者)

小林 信 明氏

(") 内野 熊一 郎氏

(") 今井 宇三 郎氏

十二月六日

特別研究生

藤 川 正 數氏

助手

今井 宇三 郎氏

孟 子 管 見

明代語錄に於ける傳習錄の地位

孟 子 管 見

史記會注考證

論 語 正 義

王 注 老 子

讀 書 會

漢文教育の將來

講 演 會

禮記月令研究の片鱗

論語孔注考

禮記月令研究の片鱗

論語孔注考

會則修正・委員選舉等

○卒業論文發表會

—六月十一・十三日—

三民主義と中國傳統的精神

秋田稔君

今本詩集傳より見たる朱子の詩經學

塚本正君

禮注に現れたる三家詩研究

高梨實二君

離騷の本質とその表現

田中信之君

戰國末思想界より墨子成書への影響

千原勝美君

現代華語の文學と音節との關係に就いての研究

石川重雄君

三十而立を中心とする孔子思想の考察

廣畑輔雄君

中國文學革命の本質とその源流

木島清君

○講演會

—十月十二日—

臯陶の名義に就いて

東大教授 加藤常賢氏

○講演會

—十月二十三日—

中國現代文學に就いて

謝冰心氏

○卒業論文發表會

—十一月二十・二十一日—

管子の法に就いて

緒形暢夫君

周易ト筮の研究

遠藤一郎君

康熙帝の編纂圖書

古賀周作君

老子研究

深澤厚吉君

白居易研究

猿渡是達君

中國文字學に就いて

志村和久君

中國田制の研究

長谷川節三君

夷狄蠻戎考

細見宏君

中庸に就いて

宮澤康造君

張横渠の思想

水澤龍夫君

一、昭和二十三年度

○研究發表會

—五月八日—

正始學に於ける王弼の立場の一考察

副手 安居香山氏

左傳に見える君子の性格に就いて

特別研究生 水澤利忠氏

無極而大極の一考察

助手 今井宇三郎氏

總會

—十一月十二日—

1 研究發表會

術に就いて

教育大學 緒形暢夫氏

春秋に於ける君子の性格

教育大學 水澤利忠氏

爾雅釋訓考

北海道學藝大學 加賀榮治氏

經學の成立に就いて

教育大學 鎌田正氏

和歌山師に於ける漢文教育の實態

和歌山大學 松下忠氏

會章に就いて

お茶の水女子大 網祐之氏

2 懇親會

委員選舉等

—二月十二日—

○卒業論文發表會

—二月十二日—

西廂記の文章の一考察

飯田吉郎君

山海經に就いて

進藤善之君

清談に就いて

佐藤信久君

文中子攷

牛山正雄君

中論

柳俊一君

近世中國思想史に於ける封帛に就いて

阿部邦義君

一、昭和二十四年度

○卒業論文發表會 —六月二十五日・十月八日・十一月十六日—

殷周革命に就いて

泉隆 試君

科學の制度

周易に於ける人間理想像
顏氏家訓音辭篇の一考察
杜詩の音形態に就いて
王羲之の一考察
名、實、論
陶淵明に於ける自然觀
說文解字學源流考

大石 豊君
木村郁二郎君
坂井健一君
谷川英則君
塚田清策君
山本哲夫君
中川太郎君
長谷川木菟哉君

一、昭和二十五年

○講演會

中國思想より見たる聖德太子 早大教授 福井康順氏
五月二十日
六月十七日

○總會

1 研究發表會

法の構造に見える韓非の
思惟に就いて 教育大學 緒形暢夫氏
毛詩源流に關する一考察 都立八女高 塚本正氏
史記引尙書の訓話的考察 北海道學藝大學 加賀榮治氏
甲骨學管見 教育大學 水澤利忠氏
中國古卜考 // 安居香山氏
王肅に就いて 靜岡大學 伊藤文定氏
鹽鐵論に就いて 香川大學 藤川正數氏
紀州藩の漢文學の全貌 和歌山大學 松下忠氏
新學制上の漢文學のあり方 福井大學 寺岡龍含氏
戴東原學術溯源 東洋大學 小澤文四郎氏

2 懇親會

會則變更・委員選舉等

○卒業論文發表會

水滸傳に於ける「打」に就いて
世說新語に於ける口語に就いて
周濂溪の太極圖說
魯迅の翻譯態度
土佐の南學に就いて
文心雕龍に於ける文學意識
漢代に於ける緯
荻生徂徠に就いて
楚辭に於ける音樂思想
三論に就いて

七月六日
狩野直助君
神保侃司君
功刀正君
眞田光雄君
大野知二君
石崎精亮君
中村璋八君
渡邊一夫君
本田義幸君
戸田八藏君
小寺和夫君

○讀書會

五四運動 十一月以降
史記 (指導者) 竹田 復氏

昭和二十六年度講義題目

○東京文理科大學
周易注疏演習 小林助教
中國上代思想史 // 河野助教
王注老子演習 // 河野助教
中國音韻學序論講讀 // 河野助教
中國音韻學演習 // 河野助教
言語學概論講義 // 河野助教
左盒集演習 // 河野助教
甲骨金石文と經學源流型の諸問題 // 河野助教
中國倫理學史 // 河野助教
本朝麗藻 小野講師

○東京教育大學
中國思想史(宋代)
中國語

- 中國文學講義
- 詩經と楚辭
- 史記講讀
- 中國明代小説講讀
- 漢文學講讀
- 日本漢文學史
- 日本漢文學演習
- 中國哲學特講
- 中國哲學演習
- 中國言語學概論
- 中國言語學演習
- 中國哲學講讀
- 中國思想史
- 中國倫理學史
- 中國語
- 中國語

西 講 師
北 浦 講 師

竹 田 教 授

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃



猶、昭和二十六年學會誌掲載論文募集のところ、應募論文十數編に及びましたが、掲載紙面の都合上、遺憾ながら、左記の論文を載せることが出来ませんでした。

- 一、孟子の平和思想 信州大學 市川本太郎氏
- 一、新制學上に於ける 福井大學 寺岡 龍 含氏
- 漢文學の在り方について 鹿兒島大學 裏 善一郎氏
- 一、告 子 考 熊本女子大學 古澤未知男氏
- 一、僧義堂の文學について 都立小松川高 小林 實氏
- 一、二十四孝について 都立小松川高 小林 實氏

本年度學會委員

- | | |
|-------|-------------|
| 委員長 | 今井宇三郎 |
| 委員 庶務 | 小林 信明 今井宇三郎 |
| 會計 | 金子泰三 瀧川 格子 |
| 會 計 | 内野熊一郎 牧野實子 |
| 研 究 | 鎌田 正 緒形 暢夫 |
| 編 輯 | 小澤文四郎 安居香山 |
| | 草野成虎 大竹修一 |